

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

NPOみなまた



No.9(2003年10月)



小規模多機能ホーム「野川の家」

”通って、泊れて、いざとなったら住み込むことができる”小規模多機能ホーム育てていきます。地域みなさんとごいっしょに



発行：NPOみなまた 発行責任者：橋口三郎 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20
☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npominam@fsinet.or.jp

題字：江口 睦美

(カット：くさのあき)

小規模多機能ホーム「野川の家」開所しました

“育てていきます。地域みなさんとごいっしょに”

「通って、泊まれて、いざとなったら住み込むことができる」小規模多機能ホーム野川の家が8月1日に開所しました。これまで10名のかたが利用されています。

「食」への意欲を失い、寝たきり状態になるのは時間の問題だったYさん。今では日中の殆どをデイルームで過ごされるようになりました。“何か食べるものはないですか”と食欲も旺盛です。

笑顔のすてきなNさんは、発語が少なく一カ所に留まることがなかなかできませんでした。今ではスタッフと冗談を交わし、少しずつですが、ゆったりとした時を過ごせるようになりました。

また、Fさんは週に2回のデイサービスを利用されています。一時期、不眠などがあって落ち着かれない状況にありましたが、短期のお泊まりを利用するなかで少しずつ改善してきました。スタッフといっしょに買い物にいたり、入浴したり、枕を並べて眠ったりして過ごされています。

車椅子で散歩をしていると遠くの畑で作業をされている方が“こんにちは。暑いですね”と声をかけてくださいます。時には、新鮮な野菜をいただいたりしています。地域の方々に支えられていることを実感します。感謝の気持ちでいっぱいです。

老いても、痴呆があっても、その人らしく生活をしていくために、私たちスタッフがすべきこと。それは、一人ひとりの個性ある高齢者を、あるがままに受け入れ、寄り添うことだと思います。まだまだ経験の浅い私たちですが、利用者の方々に喜んでいただけるようにスタッフ一同、頑張っていきたいと思っています。

小規模多機能ホーム野川の家施設長 百崎 星子



☆スタッフです。よろしくお願ひします☆

40年あまり勤務していた水保市立総合医療センターを退職して、グループホームふれあいの家から野川の家に移りました。

グループホームは一般の医療機関や家庭での対応が困難な方々をお世話する施設ですが、外から観ると内携わるとでは大違い、180度異なる介護の内容に戸惑う毎日です。先輩スタッフの姿を見て、この情熱はどこから生まれるのだろう?と感ずることはしばしばです。

高齢者介護実践講座、痴呆介護のバリデーション療法など研修にも参加させてもらいました。痴呆の方々の心の中にどこまで近づけるかわかりませんが、あせらず、気負わず、と自分に言い聞かせて頑張りたいと思います。(嘉松 節子)

最近、読んだり書いたりすることに苦勞しています。年齢のせいばかりではないのですが、物覚えが悪くなって申し訳ないと思っています。でも、体を動かすことは苦になれません。どうぞよろしくお願ひ致します。(古里 育子)

この度、「野川の家」で働かせていただくことになりました。今年の春に専門学校を卒業したばかりで、いろいろとわからない事がたくさんありますが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひいたします。(佐々木 剛)

開所時より働かせていただいています。毎日があっという間に過ぎてしまいます。利用者の方に喜んでいただけるよう、また、他のスタッフにご迷惑をおかけしないように頑張りたいと思います。

よろしくお願ひいたします。(中村 聡美)

「野川の家」開所にあたりましては、多くの方々からのお力添えがありました。とりわけ、ご近所の皆さまには物心両面にわたってご協力をいただいています。野川の家への熱い思いを寄せていただきました。

自宅介護に一番近いところとして

小規模多機能ホームとして「野川の家」が8月1日にオープンしたことに地元住民として、心から御祝い申し上げます。

私が日頃考えている小規模多機能ホームは、高齢化社会の中で最も適時適切な施策と考えています。要介護者は自宅介護が最も理想的ではありますが、社会状況は必ずしも満足すべき状況にありません。

そこで、これに一番近い状態に具現化できるのが小規模多機能ホームであろうと思っています。

さて、自宅介護に近い状態をどう具体化するかは関係者の努力に負うところ大ですが、地域の協力もまた必須と思います。要は、長い歴史をもつ被介護者が望む具体化が望まれるところです。

ご発展を祈ります。



坂本 龍紅（農業）

地域に密着した『家』に

全国でも珍しい『小規模多機能ホーム』がみごと野川地域に誕生。“誰もが利用できて、我が家が見えて、散歩ができ、外泊とまではいかなくてもケア付きの旅館の感覚で利用できる”。抵抗感がありません。

人は、出会うことで仲間ができて元気になっていきます。生きがいに励む。それが地域づくりに発展。私たちも野川を家の職員の方々や仲良くなり、野川の家を大いに利用させていただき、多くの皆さまにも知っていただきたいと思ひます。



9月に入り、畑が一斉に忙しくなり耕耘機がフル回転。種を蒔く人、植える人。今年は例年になくお天気続きで、出てきた苗の水かけに大忙しの朝夕です。その様子を真剣に眺めてくださる高齢者の方々。何も言われなくても深く心に響きます。慌ただしくなされる昨今、車椅子に押され散歩されるお年寄りなんて、何とすばらしい光景でしょう。一人ひとりに手が届き、時々笑顔が伺えます。私たちも声をかけたくります。

“もくせい香り漂う秋になりたり。私は夢を見ていた”早く地域に密着していただき、すばらしい野川の家になってほしいです。

野川の空気は、とっても美味しいし、自然環境もすばらしいです。みなさん、おいで下さい。

緒方 美志子（野川地区ふれあい活動推進委員）



十月七日、お天気にめぐまれたこの日、「キトさん家」の起工式を行いました。式は、水俣八幡神社神主のもと、厳かに執り行われました。

地主さんの江口和伸さん、近所みなさんにもご列席いただき、橋口代表理事が施主として挨拶し、「地域のみなさんに親しまれるグループホームになるようにがんばる」と述べました。

グループホーム
「キトさん家」
着工しました

メチル水銀の長期微量汚染問題について（下）

熊本・新潟に続く日本、世界の水銀汚染

水俣協立病院名誉院長 藤野 糺

◇微量汚染と第三水俣病問題

成人における長期微量汚染の影響は、1973年5月、熊本大学第二次水俣病研究班（班長：武内忠男教授）の立津政順教授により、汚染源工場操業停止後の水俣病発生と対照とした有明海の「第三水俣病」問題として提起されました。同年6月、武内忠男教授は宇土市の剖検例2例を「水俣病」と、熊大原田正純助教授は大牟田市のN氏を「水俣病と同一症状の患者」と発表しました。私たちも同年6月、徳山湾の「水俣病類似患者」を確認し、新潟では斉藤恒医師が「関川水俣病」を発表しました。しかし、これらは環境庁及び通産省とその意向を受けた学者の手で、翌年までに次々とシロ判定され抹殺されました。

1973年から78年にかけて鹿児島大学医学部第三内科井形昭弘教授のグループは、鹿児島県下で自然界でのメチル水銀汚染の影響を調査しました。そこで9名の四肢末梢性感覚障害を呈する住民を発見しました。鹿児島湾奥部の毛髪水銀高値者4名中3名（40.9、43.2、44.7ppm）は水銀値が50ppm以下で脊椎の変形があることから脊椎症、他の1名（111.6ppm）はアルコール症であり、トカラ列島の水銀低値者5名【（口ノ島の2名は低値表現のみ、中ノ島・諏訪瀬島の3名（3.5、3.2、1.7ppm）】は低値であるが故などによりその影響はないと結論づけました。これらの判断には私は今でも疑義を抱いています。

ここで海外に目を転じてみましょう。

1968、69年頃、アメリカの五大湖の水銀汚染が問題となり、汚染源としてカナダのパルプ工場（水銀触媒の酸性ソーダ工場を併設）が明らかとなりました。その一つのオンタリオ州グラッシイナロウズ、ホワイトドッグの地区では魚や鳥、カワウソ、ビーバーなどの小動物にも異変が起こり、1970年、政府は漁獲禁止の措置をとり、1975年工場（1962年操業開始）は閉鎖されました。70年から政府により、住民の血中水銀濃度が経年的に測られましたが1974年まで、100ppb以上の高値を示すものが発見され続けました。1974年、75年とネコの狂死があいつぎ、後者は解剖され、熊大武内忠男教授により熊本のネコ水俣病の病理所見と一致することが確認されました。また、政府自身も汚染魚によるネコ実験をして全例2～3ヶ月での発症を確認しています。1974年血中濃度高値者数人が行政による入院精密検査を受けましたが、いずれも典型例でないためメチル水銀の影響は確認できないということで否定されてしまいました。

被害者はカナダのアボリジ（先住民）で、1975年8月、原田正純医師（現熊本学園大学教授）らとともに私は現地を訪れました。両居留地で89名の住民を診察し28名にしびれ感、聴力障害40名、四肢末端の手袋・足袋状の知覚障害15名、求心性視野狭窄9名、振戦21名、失調8名など水俣病にみられる症状を確認しました。私たちは「軽症だが水俣病がすでに発症している」と報告しました。

中国吉林市では水俣病の発生源と同じアセトアルデヒド工場が1958年より操業されていました。1970年代に入り、工場から160km下流の魚類がいなくなるなどの環境異変が起こり、1971年には300km下流の松花江流域の肇源の漁民に軽度のメチル水銀中毒患者などが多発していることが明らかになりました。工場は1982年7月に操業を停止しましたが、これらの患者が水俣病といえるかどうかの議論が中国国内で争われました。「運動失調がないので典型例でなく亜臨床的（subclinical）で水俣病でない」とする学者と「日本のように典型例ではなくとも軽症で慢性の水俣病である」と主張する学者（潘云舟）がいました。この中国でも汚染地のネコが解剖され、熊本大学武内忠男教授により熊本のネコ水俣病の病理所見と一致しました。1986年1月、問題となっていた3人の患者の1人が亡くなり、解剖所見が水俣病の病理所見と一致していたことにより、論争に終止符が打たれました。そして1986年12月、中華人民共和国国家基準「水域汚染による慢性メチル水銀中毒の診断基準及び処理原則（試行）」が公布されました。

金採掘に伴う高度の水銀暴露はインドネシア、カンボジア、フィリピン、ベトナムなどの東南アジアやブラジル、コロンビアなどの南米、さらにアフリカのビクトリア湖周辺諸国など世界各地で問題となっています。アマゾンでは1970年代終りより機械化によるゴールドラッシュが始まり、金の生産量と比例して吸着剤として

の水銀の消費量もうなぎ登りに増量してきました。当初は水銀蒸気による健康被害で、金採掘者や仲買商のいわば職業性ともいふべき無機水銀中毒症でした。ところが現在問題となっているのは、これらの人々とは全く関係のない金採掘場の下流住民（漁民）が水銀により汚染された魚介類を摂食してのメチル水銀中毒症です。1992年3月、ブランシェス医師はフォトランジャー村の漁民28名を診察し、毛髪水銀値37.5ppm（メチル水銀の割合は100.51%）の25歳の男性に四肢末梢性感覚障害を確認し、「メチル水銀中毒の可能性が高い」と発表しました。1992年2月の原田正純医師の訪問に引き続き、同年5月、私はアマゾンを訪れ4人の漁民を診察しましたが、このときは典型的な四肢末梢性感覚障害を呈する患者を発見できませんでした。

以上述べてきましたように、政府の微量汚染と第三水俣病の否定にもかかわらず、その後カナダ、中国、ブラジルなどでメチル水銀汚染問題が続発しました。これらはいずれも、かつて水俣で発生した急性劇症などの症状は呈していず比較的少量、あるいは微量のメチル水銀中毒症と考えられます。しかし急性劇症などの患者から作られた日本の水俣病の診断基準が参考とされ、マイナス方向に大きな影響を与えました。

◇立証の道のり

私たちは潜在患者を1万人以上掘り起こすとともに、微量汚染の問題としては先号で述べた桂島の調査に引き続き、1977年から78年にかけて御所浦の住民で過去（1970年）に一度熊大二次研究班の検診を受けていたものの二度目の検診を304名について行いました。その結果、この6年～6年半の間に自覚症状と感覚障害、運動失調、難聴、視野狭窄など神経所見が大幅に増加し、あらたに水俣病が発症していました。この調査は診察医が複数であったため、次に私自身が1971年から86年までの15年間に2回診察をした510名の経年変化を比較しましたが、やはり同様の結果でした。さらに1967年の汚染源の排出停止後に非汚染地より漁師の妻などとして水俣市及び周辺地区に転入して来た住民で1974年から86年にかけて診察した7名（毛髪水銀値2.5～10.2ppm）の住民に水俣病に特徴的な四肢末梢性タイプの感覚障害を確認し、それをきたす他の疾患は考えられませんでした。そこで、これらの研究から、「現在の微量のメチル水銀の汚染が水俣病を発生させしめていると考えられる。水俣湾内外の漁獲はその安全性が確認されるまでは禁止されるべきである」と1986年7月学会において発表しました。

1975年にカナダの汚染地をみてきた私は、同じカ性ソーダ2工場が汚染源である徳山湾のメチル水銀汚染は間違いないと確信しました。そこで1986年私たちは再度徳山湾沿岸住民（主として漁民）の調査をしました。前回の調査と合わせて54名を診察し、水俣病に特徴的な四肢末梢性感覚障害を37名（68.5%）に確認し、28名を水俣病、12名を水俣病疑いと診断しました。

1992年アマゾンに私と同行した中西準子横浜国大教授（現）は、1993年より汚染地区住民の毛髪水銀値を経年的に追跡し、原田正純医師らもそれらの健康調査を併せて実施してきました。1998年11月、原田医師と現地のパラ大学及川定一助教授は、それまでの調査で毛髪水銀値20ppm以上を示した50名の漁民を診察し、バヘイア村の3名に四肢型の感覚障害（両手足先端に強い感覚鈍麻）、共同運動障害、振戦などを認め、合併症などが考えられないことから、メチル水銀の影響（水俣病）と診断しました。このうちの2名はそれまでの毛髪水銀値が50ppmを超えていず、新潟水俣病を基に暫定安全基準とされてきた毛髪水銀値50ppm（1976年WHO評価基準）を超えなくても、長期微量汚染により慢性型のメチル水銀中毒が発症することを裏付けました。

1999年7月、私たちは中国の松花江流域住民（18歳以上）の健康調査をハルビン医科大学との共同研究として実施しました。黒龍江省肇源の漁業專業地域（A）、半農半漁地域（B）、農業地域（C）の三カ所に分け、無作為抽出により196名（A38名、B40名、C118名）が受診しました。魚介類多食のA、Bには四肢末梢性感覚障害タイプの感覚障害（A：7名、B：5名）がC（0名）と比較し優位に高く出現しました。毛髪水銀値はA（ 3.1 ± 1.7 ppm）、B（ 2.7 ± 1.9 ppm）がC（ 1.0 ± 0.6 ppm）と比較して有意に高値を示しました。もちろん毛髪水銀値は全例50ppm以下（最高はBの7.8ppm）でした。

2002年8月～9月に原田正純医師と私とはカナダの汚染地を27年ぶりに訪れました。当時の毛髪水銀値と臨床症状が明らかになっていた例が長期経過後にどのように変化しているかを明らかにするためです。前回受診の9名を含む57名の住民を調査しました。57名の診察結果を日本政府の診断基準に当てはめると水俣病11名、合併症あるが水俣病12名で、主として四肢の感覚障害だけで症状が軽いメチル水銀の影響（軽症水俣病）と

考えられるものが22名でした。これらを合計すると45名（78.9%）がメチル水銀の影響を受けていることになります。今回も毛髪水銀値が測定されました。その結果、平均2.11ppm（最低0.11ppm、最高18.1ppm）で、現在この地域で水銀汚染は改善されて軽微と考えられました。水俣病と診断された住民の過去の毛髪水銀値は比較的高いものですが、すべて50ppm以下を示していました。

◇おわりに

以上述べてきましたように、徳山湾、カナダ・オンタリオ州、中国松花江流域、そしてアマゾン川流域のメチル水銀汚染地域においては、四肢末梢性障害タイプの感覚障害が臨床症状の底辺をなしています。この四肢末梢性障害タイプの感覚障害は、私たちの主張してきた水俣病の診断基準そのものであり、1995年の政府解決策の救済基準とされました。

私は井形昭弘教授らの鹿児島湾奥の水銀汚染の報告の頃、私自身で汚染地域住民を診察したいと考え、一度現地を訪れましたが、それはできませんでした。そしてその後、トカラ列島の報告を聞いたときも「自然界でのメチル水銀汚染がヒトの被害におよんでいるのではないか」と考えました。もしもこのとき井形教授らが、私たちと同じメチル水銀の長期微量汚染の影響を重視する立場に立って世界に警鐘を発していれば、中国、カナダやブラジルを含めて現在問題となっている世界の水銀汚染の実態は違った展開になっていたのではないかと思います。本年6月30日、WHO・FAO合同専門家会議は、メチル水銀の摂取許容量を、これまでの半分以下に引き下げる決定をしました。メチル水銀の長期微量汚染の問題は妊婦と胎児だけの問題ではなく、とくに日本にあっては水俣病の診断基準、成人の毛髪水銀の評価基準値とそれから計算された魚介類の暫定基準値の見直しを含めて解決しなければならない課題です。

九州新幹線雑感

いよいよ、新幹線つばめの試運転が始まった。新幹線駅舎の工事は急ピッチで進められ、2004年3月の開業が、いよいよ眼前に迫ってきた感がある。しかし、高速鉄道の開業の「影」に隠れるようにして肥薩おれんじ鉄道線の誕生、そして在来寝台特急なはの廃止など、ここ1年、鹿児島・熊本をめぐる鉄事情はめまぐるしく変貌していく。

九州新幹線の開業は、既存路線とは明らかに異なった特色をもったインパクトをもたらすことが考えられる。東海道や東北新幹線は、いかに「東京」と短時間で輸送ができるかを主要命題としてきた。しかし、九州新幹線は、変則的な暫定開業であることに加えて、博多までフル規格での開通が叶っても、すでに鹿児島や熊本から東京への旅客量の多くは航空輸送が占めているし、旅客運賃の競争激化の潮流が当たり前のように進んでいる現状を考えれば、前途は明るい予測ばかりではなさそうだ。

しかし、このような悲観的観測にただ飲まれてしまうことは、主な利用客となる地域住民はもとより、新幹線つばめやおれんじ鉄道にとって、これほど不幸なことではない。ボーダレス化社会の到来は、ストロー現象の進行による都市間競争の激化と地方部での過疎化をもたらした。さらに、現代では、高速情報網の普及でその動きは一層複雑化している。このような社会状況をふまえ、九州新幹線の利用促進を考えるには、鹿児島・熊本両県民が、当面は主導力を発揮し、博多までの全線開業時には、両県の観光周遊コース発信や企業・学術交流、通勤圏の拡大などが、東京行き新幹線にない地域新幹線としての先行地となることを念頭に、九州新幹線を見つめていくことが求められている。

このことは、ひいては平行在来線との利用連携策を構築する際にも大きな示唆を与えてくれることになる。

深見 聡（NPO法人まちづくり地域フォーラム・鹿児島探検の会代表理事）

* まちづくり地域フォーラム・鹿児島探検の会は、2001年12月、NPO法人として生まれ、現在、散策を通じて市民に地域の良さを再認してもらう生涯学習の企画や、自治体にその地域に適したまちづくりの提言をまとめる調査研究を行っている。

□「豊饒の海」有明海と諫早湾干拓事業を主因とする有明海異変

かつて有明海は、日本最大の潮汐、日本最大の干潟などの個性的な環境特性により、極めて高い生物生産力を有し、とりわけ、特産種・絶滅危惧種である魚介類（ムツゴロウなど）や鳥類（クロツラヘラサギなど）が多数生息する世界的に貴重な自然環境でした。有明海の漁獲高は日本一を誇り、とりわけ海苔の養殖は、質量ともに日本一の生産を誇るまでになっていました。こうした有明海の豊かな生物相は、山からの栄養塩、それを運ぶ川的作用、そして、有明海の漁業資源が幼稚魚時代を過ごす場であり（有明海のゆりかご・有明海の子宮）、有明海の水質を浄化する機能（有明海の腎臓）を有する「諫早湾干潟」によって支えられていました。



しかし、近年、山は乱開発され荒れ果て、川はコンクリートで固められ、終には筑後大堰により、筑後川と有明海は切り離されてしまい有明海には山と川からの栄養が流れてこなくなりました。

そして、1990年、有明海に対する止めともいえる諫早湾干拓事業の着工により、タイラギなどの漁獲高が激減し、1997年4月14日、潮受堤防の閉め切りにより諫早湾干潟と有明海とは完全に切り離され、水質浄化機能を奪われた有明海は、たちまち汚濁し生物が生息できないヘドロの海と化してしまいました。この自然的条件の改変は、有明海の生態系に打撃を与え、自ら脱出することが困難な貝類は、ヘドロに埋もれ呼吸ができず、ことごとく成長する前に死んでしまっていました。辛うじて残った海苔の養殖でさえも、ここ3年の内に2回も未曾有の大凶作に見舞われ、今や風前の灯となっています。かつての「宝の海」はいまや「瀕死の海」となってしまいました。そして、貝や魚や野鳥だけでなく、そこで暮らす漁民の生命までもが奪われようとしているのです。

国は、生物を殺し環境を破壊し、漁民の生活を奪ってまで、干拓を強行しています。2600億円もの税金を投入して諫早湾に農地を造成しようとしているのです。既存の農家に減反を強いながら、今なぜ農地が必要なのでしょう。なぜ工事を続ける必要があるのでしょうか。その理由は明らかです、政治家と官僚、そして土建業者が結託して、利権をむさぼろうとしているのです。公共事業を食い物にしている一部の人間、すなわち政官財の利権のために、貴重な自然が破壊され、人類共通の遺産が奪われようとしているのです。水俣病で散々に痛めつけられた有明海・不知火海は、今また政官財の利権のために、生物の棲めない海にされようとしているのです。

□有明海の再生を目指して（裁判、原因裁定、支援の状況）

諫早湾干拓事業の潮受堤防を開放することは、有明海を再生し、有明海沿岸地域をよみがえらせる第一歩です。

そこで、漁民と市民が立ち上がり2002年11月26日、諫早湾干拓工事の差止を求める仮処分及び本訴を佐賀地方裁判所に提起し、現在、原告数800名を超えるマンモス訴訟となっています。また、2003年4月16日、「ノリの色落ち」「貝の斃死」と諫早湾干拓事業との因果関係を明らかにするため、東京の公害等調整委員会に対して原因裁定の申請を行いました。

現在、有明海沿岸4県を中心に湧き上がった支援の輪は全国に広がり東京にも支援する会が発足し、大きな世論を形成しつつあります。

今ある自然は、未来の子ども達からの借り物です。子や孫の世代にそのままの形で豊かな自然を返すために、みんなで協力して環境を守って行きたいとおもいます。諫早湾干拓を中止させるために皆様のご支援をよろしくお願いします。



☆101歳、眠るように旅立って…☆

101歳の天寿を全うされ、ご逝去された川野ワキさまは、昨年5月、開設当日に入居していただいた方でした。

入江の干潟を部屋から眺め、「ここは、よかとこな」とにつこり。そのほほえみに安堵したことを思い出します。毎朝、目覚めるとすぐに海に向かって無言で手を合わせ、次は部屋を出てリビングから、次は広縁からと場所を変えて海に向かって静かに祈っておられました。川野さまの祈りは、一日の始まりの大切な儀式であり、私どもにとっても神聖で心洗われる光景として今でも臉に残っています。

水俣のふれあいの家に行きますと、入居者のHさんが「オワキさん元気かな」と何度も尋ねられます。「はい、お元気ですよ。もう、101歳にならしたですよ」と繰り返します。オワキさんが目標です。

蝋燭の炎がゆらめきながら少しずつ小さくなっていくように、眠るように旅立っていかれたとお聞きしました。101歳のお誕生日を三郎の家で御祝いできたら…それが叶わず悔やまれます。少し右下に首を傾けてほほえむ川野さまの笑顔に、いつまでも包まれているような想いがします。感謝

心より、ご冥福をお祈りいたします。



三郎の家施設長 柏木 敦子

活動日誌（2003年7月～10月）

NPOみなまた

- 7月29日 第3回NPOみなまた理事会
- 7月30日 野川の家開所式
- 9月12日 第4回NPOみなまた理事会
- 10月7日 キトさん家起工式

関係団体

- 7月16日 水俣病被害者三団体環境省申し入れ
- 8月23日 川辺川現地調査
- 9月14日 第24回日本環境会議

水俣大水害義援金のご協力ありがとうございました

68個人3団体の方から総額284,089円が寄せられました。

お寄せいただいた義援金は9月5日、水俣市および被災者の会代表の吉海英機さん宅を訪ねて、お届けいたしました。

皆さまの善意とご協力に重ねて感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。

☆よろしくお祈りします☆

縁あって三郎の家に勤務することになり3ヶ月が過ぎようとしています。

片時もじっとしてられない方の介護を通じ、その人の良いところを認め、その人らしく過ごせるよう援助していくことの大切さを学ぶことができました。

看護師としての経験はありますが、デイサービスに関しては分からないことの連続です。利用者の方の個性を尊重し、居心地の良い場が提供できるよう努力していきたいと思えます。

林 朱美（デイサービス三郎の家）

● 8月から念願のグループホームで働くことになりました。

● これまでに教わったこと。一つは、その方の性格、生活、趣味などをよく知り受け入れることにより、接する私たちもゆとりのある対応ができるということ。● それから、優しさは必ず手に伝わるとのこと。スキ

● ンシップを嫌がる人はあまりいらっしゃいません。● 手を握り、ふれあい、寄り添ったケアができればと思えます。

● 田中 幸子（グループホーム三郎の家）

☆事務局長のつぶやき…

10月10日から12日にかけて、水俣病被害者の会の、山下覚さん、川崎清太郎さんに同行して、新潟水俣病現地調査に行ってきた。両氏は、何回か参加されている。私は初めてだった。

現地の説明役の方や、参加者の口から、「熊本」水俣病・・・「熊本」水俣病・・・と何べんか発せられる度に、複雑な心境になった。我がNPOは、その地名を冠せられた地域で、「ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！」を謳うNPOとして設立された。そして、ほんの少しの時間が過ぎた。そして、自問した。

介護「事業」の「経営」に埋没しているのではないかな？ もう一本の柱を忘れたら、NPO「みなまた」ではなくなる。そんな三日間だった。

（NPOみなまた事務局長 田畑五月）